

冬を楽しむ！ 昔の遊びと自然観察！

郷土資料館「ウィンタースクール」のお知らせ

●第1回目 昔の遊び「凧づくりに挑戦しよう」

と き 平成22年1月10日（日）午前10時～12時

ところ 別海町郷土資料館

●第2回目 自然観察 「冬の王者 オジロワシ・オオワシを見よう」

と き 平成22年1月12日（火）午前10時～12時

ところ 別海町郷土資料館・風蓮湖

●対象者及び募集人員

小学生以上 先着10名



ふるさと講座・自然系 第3回目

「秋の渡り鳥観察会」の様子

11月21日（土）ふるさと講座・自然系「秋の渡り鳥観察会」を風蓮湖にて開催しました。講師は上西春別中学校の藤井薫先生です。車中では、この時期観察できる野鳥のお話、現地では走古丹地区の自然環境やここで数多く見られるユキホオジロの生態などを詳しく説明いただきました。残念ながらユキホオジロは観察できませんでしたが、ハシビロガモ・マガモ・コオリガモ・クロガモ・ウミウ・コクガン・オオハクチョウなどの水鳥、オジロワシ・オオワシ・トビなどの猛禽類のほかタンチョウなどを観察しました。走古丹漁港内では、コオリガモをまじかに見る事が出来るという珍しいこともあり、さらにこれから多く飛来するオオワシやオジロワシが、エゾシカと思われる死骸に集まるなど、自然の厳しさとその雄大な姿に参加者の目は釘付けでした。



近世の別海を語る「ニシベツ」～その1～

No. 122～124 では、「ベツカイ」を紹介してきました。今月号からは、西別川をはさんで南側に位置する「ニシベツ」について紹介したいと思います。

●地名の由来について

☆「ニシベツ」

・「夷語ヌーウシベツの略語なり。則、潤沢成る川と訳す。扱、ヌーとは潤ふと申事。ウシは生す亦は成「す」・申意。ベツは川の事にて、此川鱒鮭其外雑魚潤沢なる故、地名になすといふ。」

『蝦夷地名考并里程記』上原熊次郎 文政7年(1824)

・「名義、ニシベツはヌウシベツの転にして、川上に湯の如き温き水噴出す。故に号る也。」

『東西蝦夷山川地理取調紀行 東蝦夷日誌』松浦武四郎 安政3年(1856)

・「ヌウシベツは訛て今ニシベツと云う。」

『戊午第十二巻 東部奴字之辺都誌』松浦武四郎 安政5年(1858)

・「ニシヲーヘツ 雲応(覆)る川 一説にヌンシヘツ共いふ 涌坪(壺)川」⇒

『丙寅慶応二年正月吉日 万覚帳 安政六未年 子モロ地名和解書』加賀伝蔵 安政6年(1859)

・「ニシヲトベツ 雲懸る川 ヌンシベツ共いふ」

『蝦夷方言 藻汐草[写]根室国境区域[根室地名解]』加賀伝蔵

明治2年(1869)

☆「ヌー ウシュ ペツ」

・「豊漁川 安政帳ニモ西別ノ元名「ヌウシュペツ」

『北海道蝦夷語地名解』永田方生 明治24年(1891)

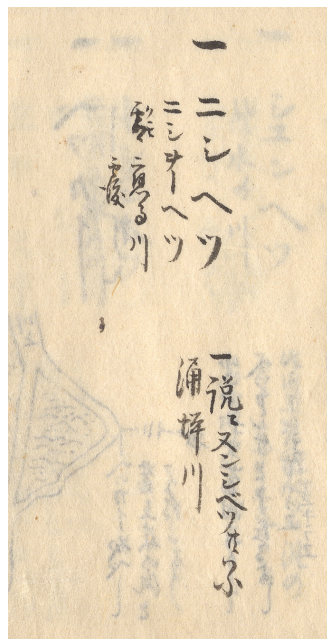
☆「西別川」

・西別川は流長77キ、標津川と並ぶ大川である。

川水が清澄で、この川の鮭の味は北海道第一と称せられて来た。上原熊次郎地名考は「ニシベツ。夷語ヌーウシベツの略語なり。則潤沢なる川と訳す。此川鱒鮭その外雑魚潤沢なる故地名になすといふ。当場所は秋味第一の場所なり」と書いた。松浦氏東蝦夷日誌は「ヌウシベツの転にして、川上に湯の如き

温き水噴出す。故に号る也」と別の解を書いた。永田地名解は「ヌーウシ(シは小文字)ペツ。豊漁川」と書いた。ヌ・ウシ・ペツ(nu-ush-pet 豊漁・ある・川)の意

『北海道の地名』山田秀三 昭和59年(1984)



加賀家文書『絵本雑録記』

別海町郷土資料館だより No.125

発行日 平成21年12月2日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

今年も残すところ1ヶ月、ここ数年は「加賀家文書」の整理作業を進めていますが、終わりが見えてきません。世に出ているものの分析作業、これから出そうとするものの整理作業なかなか手強いです。まだまだやることはたくさんあり、うれしい悲鳴ですが？(K.I)